

参加
無料

シンポジウム

「空き地問題を考える」

～政策動向と先進的な取組～

人口減少社会を迎え、地方都市や郊外を中心に空き家だけでなく空き地も増大しつつあり、特に世帯が所有する空き地はここ10年で約1.4倍に増加しています(国土交通省・土地基本調査)。また、土地所有者の利用意欲が減退している中、いわゆる所有者の所在の把握が難しい土地も含め、土地の管理放棄の問題が表面化してきています。

こうした状況を放置すれば、地域の活力や良好な生活環境を損なうおそれがあり、その拡大をいかに防いでいくかについての検討が必要となっています。

一方、地域創生等の観点から、空き地等を地域の「資源」として活用する先進的な取組みも見られており、こうした取組みを後押ししていくことはもとより、優良事例を収集・分析・普及しながら、空き地等を増やさない方策を検討していくことも必要です。

本シンポジウムは、こうした空き地問題やその対策について、政策の動向や地域での先進的な取組＝グッドプラクティスの報告やディスカッションなどを通じ、理解を深めることを目的として開催致します。

基調講演:

空き地を市場価値から考える(仮) 中川雅之(日本大学経済学部教授)

政策動向:

空き地対策の推進について 田村英之(国土交通省土地・建設産業局企画専門官)

グッド・プラクティス:

事例①: 駐車場の暫定利用による地域価値の向上～福井市「新栄テラス」
原田陽子(福井大学工学研究科准教授)

事例②: 空き地等の取得の促進～埼玉県毛呂山町の取り組み
酒井優(毛呂山町まちづくり整備課)

事例③: 空き地情報の集約化とニーズとのマッチング～千葉県柏市「カシニワ」制度
横枕健二(柏市都市部公園緑政課副参事)

質疑応答・ディスカッション:

【日時】 2017年11月15日(水)13:30～16:30(予定)

【場所】 国土交通省
(千代田区霞が関2-1-2 合同庁舎2号館地下2階講堂)

【主催】 国土交通省土地・建設産業局

【事務局】 株式会社 三菱総合研究所 地域創生事業本部

【参加費】 無料(定員150名、事前申込・先着順)

